

## 2014年度第7回執行理事会議事録

期 日：2014年12月6日（土）10:00～12:30

場 所：地質学会事務局

出席者：井龍会長 山本副会長 渡部副会長 齋藤常務理事 海野（少々遅刻） ウォリス 緒方 坂口 竹内 中澤 平田 廣木 星 保柳 松田 山路 榊原議長、小嶋副議長（事務局） 橋辺

欠席者（委任状提出あり）：杉田

\*定足数（12、委任状含む）に対し、出席者16名、委任状 1名、合計17名の出席。

\*前回議事録の承認

### I 審議事項

1. 県の石選定委員会の発足：委員長 川端清司，アドバイザー 石渡 明・永広昌之

専門部会推薦委員：6名

地域地質：松原典孝（兵庫県立大学），層序：高橋雅紀（産総研），古生物：重田康成（科博），火山：長谷川健（茨城大），鉱物資源：藤永公一郎（東大），岩石部会：督促するも連絡なし

各支部長7名，ただし，近畿支部は支部長の代わり，里口保文会員（琵琶湖博物館）を推薦

2. 名誉会員推薦委員会（委員長：山本副会長）

階層別委員4名の選出

・官公庁：栗本史雄（産総研），小中高教員：会田信行（秀明大学校教師部）

会社：松浦一樹（ダイヤコンサルタント），大学：竹内 章（富山大）

・理事会推薦委員1名：午後の理事会で決定

・職責委員（各支部長）7名

竹下 徹，土谷信高，有馬 眞，原山 智，宮田隆夫，榊原正幸，佐野弘好

3. 各賞選考委員会各賞選考検討委員（10名程度）の推薦

指定委員

前・現会長：石渡明 井龍康文

過去3年間の学会賞受賞者：木村 学（井龍康文）

乙藤洋一郎 川幡穂高，齋藤文紀

地質学雑誌 前・現編集委員長：小嶋 智 山路 敦

IAR 前・現編集委員長：（井龍康文）前川寛和 伊藤 慎 海野 進

\*執行理事会推薦 専門を考慮して 佐脇貴幸会員を選出

\*各賞推薦状況

4. 地質学雑誌投稿編集出版規則の一部改正について（山路）

・地質学雑誌に著者プロフィール欄を新設する。著者

プロフィールを付けるかどうかは著者の判断。共著論文の場合，共著者の役割を書くこともできる。いくつかの例を編集委員会が例示する。

5. 広報体制の見直し提案（坂口）

・News誌，ジオルジュ等の担当を広報委員会委員が分担する。News誌は小宮委員，フォトコンは清川委員。「地質学者に答えてもらおう」は，アウトリーチ担当とも共同することを検討する。

6. GSAのAssociate Society (AS) について（ウォリス）

GSAのASになるメリットがほとんどない。ASにならないことにする。

7. 国際交流の小委員会の再起動に関して（井龍）

2007年度に以下の小委員会が発足。これらの既存小委員会を中心にして国際交流を強化する。

・日韓小委員会：高木秀雄（委員長），江川浩輔，大藤 茂，高橋 浩，久田健一郎

・日タイ小委員会の発足：久田健一郎・上野勝美・仲谷英夫・曾根正敏・脇田浩二

・日一モンゴル小委員会：坂巻幸雄・大藤 茂・高橋裕平

・日一フィリピン小委員会：松岡 篤・尾上哲治・渡部直喜

8. 2015年度事業計画について

メール審議にて修正加筆を加え大筋の了解を得た案になっているので理事会に提案する。

9. 理事会議事運営

議長，副議長とともに議事内容，進行を確認した。

10. 地学教育関係（廣木）

・次期指導要領改訂を睨んだWGを立ち上げる。社会貢献部会理事+星副常務のほか，学校教員+中村教博会員（東北大）+安間 了理事（筑波大）も候補。

### II 報告事項

1. 全体的報告（メール審議確認）

(1) 大学評価・学位授与機構より依頼の国立大学教育研究評価および機関別認証評価委員会の専門委員候補者として，3名の会員を推薦した。

(2) 経済産業省 資源エネルギー庁電力・ガス事業部放射性廃棄物等対策室より，総合資源エネルギー調査会審議会（地層処分技術WG）再開にあたり委員委嘱要請があり，メール審議のうえ，前年度に続き渡部芳夫理事を推薦した。

(3) 機関リポジトリ登録論文 (D論) の著作権の扱い等に関し、メールで議論をし、現行の地質学雑誌の著作権譲渡同意書等、手続きについて問題がないかどうか、法的なことについては弁護士にも相談することとし、法務委員会 (上砂委員長) に諮問した。上砂委員長からは要請書の受領と今後高木弁護士とも相談のうえ、答申する旨の返事があった。

(4) 地層名等の層序単元登録に係る委員会 (「層序単元登録審査委員会 (仮称)」) 設立に際し、第四紀学会、鉱物科学会、火山学会、地学団体研究会、東京地学協会に委員の推薦を要請した。

(5) 自然史学会連合の加盟学協会から、連合としての意見書・要望書を出す提案があった場合の手続き、ならびに連合としての意思決定のプロセスについての意見聴取があった。メール審議の上、学会としての意見を提出したが、実際には12/6の連合の総会で審議されるとのことで、地質学会選出の齋木委員に総会での対応を託すこととした。

(6) 沖縄地学会参加報告 (井龍)

## 2. 運営財政部会 : 総務委員会 (緒方)

<共催・後援依頼, 他団体の募集等>

1. 三菱財団平成27年度助成金公募 (2014/1/6-2/3) → geo-flash, HP, News に掲載

2. 住友財団2014年度基礎科学研究助成98件・環境研究助成のうち本年度募集課題3件、一般研究50件が決定との通知。本年度募集課題で学会会員も採択されている。

なお、次年度の課題は「喫緊の環境問題解決のための学際研究または国際共同研究」、2015年4月上旬募集要項等配布開始予定。

3. 高校生科学技術チャレンジISEC2014最終審査会・表彰式の案内 (12/14) → 欠席の返事

<その他>

1. 地質学会のフィールドノートを、徳間書店発行「グッとくる文房具2015」企画タイトル：野帳の王国、12/16発売」への掲載依頼があり、承諾した。

2. 東大気海洋研究所共同利用研究集会「バイオミネラリゼーションと石灰化」開催案 (12/12-13) → geo-flash, HP, News に掲載

3. 産総研地質調査総合センターよりGSJシンポジウム「日本列島の長期的地質変動の予測に向けた取り組みと今後の課題」開催案内 (2015/1/16) → geo-flash, HP, News に掲載

4. 日本水環境学会より第49回年会の案内 (2015/03/16-18) の案内 → geo-flash, HP, News に掲載

<会員>

1. 今月の入会者 (3名)

正会員 (2名) : 金森信孝 (2014年度から入会), 曹 鉦子 (2015年度から入会)

正 (学部割) 会員 (1名) : 本合弘樹 (2014年度から入

会)

2. 今月の退会者 正会員 [1名] 鈴木昌明

3. 今月の逝去者 なし

4. 2014年11月末日会員数

賛助 : 27, 名誉 : 64, 正会員 : 3830, (正会員 : 3644, 院割会員 : 171, 学部割会員 : 15) 合計3921 (昨年比 -76)

5. 2014年度末退会予定者 (37名) ならびに除籍予定者 (107名) 一覧

<会計>

・11月までの会計執行状況および鹿児島大会の収支状況報告

## 3. 広報部会 : 広報委員会 (坂口・松田)

・英文ホームページの専門部会紹介進捗状況報告。

## 4. 学術研究部会 (ウォリス・竹内・中澤)

(1) 行事委員会 (竹内)

・長野大会の準備状況および委託業者の選定等について報告があった。地質情報展は市民講演会とセットで科研費申請を行った。

・2015年度総会に合わせて講演会を行うことを準備中。

・地質情報展企画運営員に行事委員内野隆之氏をオブザーバーとして推薦。

・学術大会運営委託業者選定のための相見積もりを行い、次回執行理事会で業者を決定予定。

(2) 国際交流委員会 (ウォリス)

・日本—モンゴルの学術交流協定を10月14日付で更新した。

・日本—台湾の学術交流協定は、協定書案の合意を得て、協定書を準備中。

・来年英国で開催される津波堆積物関係のシンポの準備が進行中 (日本側から4名程度の子定)。

(3) JIS, 標準担当 (中澤)

・年代表記の記事をNews誌とgeo-flashに掲載した。

・層序単元の委員会は、地域地質部会から内野会員、層序部会から岡田会員が選出。

## 5. 編集出版部会 (山路・海野・保柳)

(1) 地質学雑誌編集委員会 (山路)

1) 編集状況報告 (12月2日現在)。

・2014年投稿論文 総数63編 [総説5 (和文5)・論説31 (和文31)・ノート1 (和文1)・報告10 (和文7・英文3)・口絵8 (和文5・英文3)・巡検案内9]

・査読中21編 受理済み5編 (うち特集号5)

・120巻11号: 論説2, 報告1, 口絵1 (計43頁) 11/28 発送済み

・120巻12号: 発送は1月になる見込み。

・地質学雑誌の投稿数の減少および発行への影響について、深刻な状況が報告された。

2) 地質学雑誌投稿編集出版規則の一部改正を検討→ 審議事項

(2) アイランドアーク編集委員会 (海野)

- ・編集状況報告
- ・投稿数が昨年、今年と減少傾向。

(3) 企画出版委員会 (保柳)

6. 社会貢献部会 (平田・杉田・廣木)

- ・秋季地質調査研修は参加者 6 名を得て予定通り (11/25-11/29) 実施され、事故なく終了した。

7. ジオパーク支援委員会 (平田)

- ・地震火山子どもサマースクールについて、実施体制を整理すべく、関係 3 学会で協議している。

また、2014年島原大会の収支、残額の扱いについて検討中。2015年、南アルプス大会の実行委員会を組織した。

8. 地学オリンピック支援委員会

- ・国際地学オリンピック三重大会は30カ国からの参加を想定。会期は2016年8/16-27。組織委員会から寄付金について要望があった。

9. 地質災害委員会 (斎藤)

- ・今年の年会で緊急展示された災害について、News誌 11号に報告が掲載された。昨年分は12号に掲載予定。御嶽の噴火や白馬村の地震災害についても報告記事を掲載するよう、関係者に依頼する。

10. 地質技術者教育委員会 (山本)

- ・フィールド調査ができることを認定するフィールドマスター制度 (仮称) を検討中。

11. 中期ビジョン (坂口)

- ・中期ビジョンの構成 (頭出し)、前ビジョンの特徴 (レビュー)、次期ビジョンの目玉 (新規点) などが説明された。本体 (詳細版) のほかに中期ビジョン概要版も作成する。

以上

2014年12月22日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会 長 (代表理事) 井龍康文

署名人 執行理事 斎藤 眞